

審 議 事 項

件名・議案	提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載)	説明者	
I 審議事項					
1. 委員会関係					
提案1	(分野別委員会) (1)運営要綱の一部改正(新規設置1件) (2)委員会及び分科会委員の決定(【委員会及び分科会】追加1件【小委員会】新規1件)	(1)機械工学委員会委員長 (2)各部署長	B(7-10)	小委員会の新規設置に伴い、運営要綱を一部改正するとともに、分野別委員会における委員等を決定する必要があるため。	会長 各部署長
提案2	(課題別委員会) 科学的エビデンスに基づく「スポーツの価値」の普及の在り方に関する委員会 (1)委員の決定	会長	B(11)	科学的エビデンスに基づく「スポーツの価値」の普及の在り方に関する委員会における委員を決定する必要があるため。	渡辺副会長
2. 提言等関係					
提案3	提言「ハッブルの法則の改名を推奨するIAU決議への対応」について日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと	物理学委員会委員長	C(1-20)	物理学委員会IAU分科会、天文学・宇宙物理学分科会において、提言をとりまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。 ※第三部査読	物理学委員会IAU分科会、天文学・宇宙物理学分科会 岡村委員
提案4	回答「国際リニアコライダー計画の見直し案に関する所見」を日本学術会議会則第2条5号の「回答」として取り扱うこと	国際リニアコライダー計画の見直し案に関する検討委員会委員長	C(21-54)	文部科学省研究振興局長からの審議依頼である「国際リニアコライダーに関する審議について(依頼)」に対し、日本学術会議会則第2条に基づき回答したいため。 ※科学と社会委員会査読	国際リニアコライダー計画の見直し案に関する検討委員会 家委員長
3. 協力学術研究団体関係					
提案5	日本学術会議協力学術研究団体を指定すること	会長	B(13)	日本学術会議協力学術研究団体への新規申込のあった下記団体について、科学者委員会の意見に基づき、指定することとしたい。 ①情報法制学会 ②日本作業療法教育研究会 ③日本脳神経血管内治療学会 ※平成30年12月19日現在2,035団体(上記申請団体を含む)	三成副会長

4. 学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等
【平成31年度第1四半期】

提案6	学術フォーラム「危機に瀕する学術情報の現状とその将来 Part 2」の開催について	会長	B(17-18) ※全体概要 B(15-16)	主催：日本学術会議 日時：平成31年4月19日（金） 13:00～17:30 場所：日本学術会議講堂	—
提案7	公開シンポジウム「横行する選考・採用における性差別：統計からみる間接差別の実態と課題」	社会学委員会委員長	B(19-20)	主催：日本学術会議社会学委員会ジェンダー研究分科会 日時：平成31年6月8日（土） 13:30～17:00 場所：日本学術会議講堂 ※第一部承認	—
提案8	公開シンポジウム「男女がともにつくる民主政治」を展望する—「政治分野における男女共同参画推進法」の意義（仮）—	法学委員会委員長	B(21-22)	主催：日本学術会議法学委員会ジェンダー法分科会 日時：平成31年4月6日（土） 13:30～17:00 場所：日本学術会議講堂 ※第一部承認	—
提案9	公開シンポジウム「産業動物と食の観点からのOne health」	農学委員会委員長、食料科学委員会委員長	B(23-24)	主催：日本学術会議食料科学委員会獣医学分科会、日本学術会議農学委員会・食料科学委員会合同食の安全分科会、日本学術会議食料科学委員会畜産学分科会 日時：平成31年5月25日（土） 場所：日本学術会議講堂 ※第二部承認	—
提案10	公開シンポジウム「子どもの戸外遊びが消滅！？遊びへの社会的介入としての移動式遊び（プレーバス）」	心理学・教育学委員会委員長、臨床医学委員会委員長、健康・生活科学委員会委員長、環境学委員会委員長、土木工学・建築学委員会委員長	B(25-27)	主催：日本学術会議心理学・教育学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会・環境学委員会・土木工学・建築学委員会合同子どもの成育環境分科会 日時：平成31年6月1日（土） 13:00～17:00 場所：日本学術会議講堂 ※第一部・第二部・第三部承認	—

5. その他のシンポジウム等

提案11	地方学術会議「日本学術会議in北海道」	会長	B(29-31)	主催：日本学術会議 日時：平成31年2月16日（土） 9:00～16:45 場所：ANAクラウンプラザホテル札幌	—
------	---------------------	----	----------	---	---

提案12	公開シンポジウム「国立自然史博物館の設立を目指して～沖縄の未来形成に果たす役割と責務～」	基礎生物学委員会委員長、統合生物学委員会委員長、地球惑星科学委員会委員長	B(33-34)	主催：日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同動物科学分科会、日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会・地球惑星科学委員会合同自然史・古生物学分科会 日時：平成31年2月1日（金） 13：00～17：00 場所：沖縄銀行本店5階ホール（沖縄県那覇市久茂地3丁目10-1） ※第二部承認	—
提案13	公開シンポジウム「国公私大の地域を超えた役割と連携：未来社会と応用物理」	総合工学委員会委員長	B(35-36)	主催：日本学術会議総合工学委員会未来社会と応用物理分科会 日時：平成31年3月9日（土） 9：50～12：20 場所：東京工業大学 大岡山キャンパス ※第三部承認	—
提案14	公開シンポジウム「天文学の100年：過去から未来へ—国際天文学連合100年記念シンポジウム—」	物理学委員会委員長	B(37-38)	主催：日本学術会議物理学委員会IAU分科会 日時：平成31年5月27日（月） 13：00～17：00 5月28日（火） 10：00～17：00 場所：国立科学博物館講堂 ※第三部承認	—
提案15	公開シンポジウム『素粒子物理・原子核物理分野の「大型施設計画・大規模研究計画マスタープラン」に関するシンポジウム』	物理学委員会委員長	B(39-40)	主催：日本学術会議物理学委員会 素粒子物理学・原子核物理学分科会 日時：平成30年2月19日（火） 10：00～18：00 場所：日本学術会議講堂 ※第三部承認	—
提案16	公開シンポジウム「AI時代のもの・コトづくりに向けた新たな計算科学活用における課題と期待」	総合工学委員会委員長、機械工学委員会委員長	B(41-43)	主催：日本学術会議総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会 日時：平成31年2月14日（木） 13：00～18：00 場所：日本学術会議講堂 ※第三部承認	—
提案17	公開シンポジウム「免震・制振データ改ざんの背景と信頼回復への道筋」	土木工学・建築学委員会委員長	B(45-46)	主催：日本学術会議土木工学・建築学委員会 日時：平成31年1月15日（火） 13：30～17：30 場所：日本学術会議講堂及び6-C(1)(2)(3)会議室(6階) ※第三部承認	—
提案18	公開シンポジウム「第65回構造工学シンポジウム」	土木工学・建築学委員会委員長	B(47-48)	主催：日本学術会議土木工学・建築学委員会 日時：平成31年4月20日（土）～21日（日） 場所：関東学院大学金沢八景キャンパス 3号館 ※第三部承認	—

提案19	公開シンポジウム 「第32回環境工学連 合講演会」	土木工 学・建築 学委員会 委員長	B(49- 50)	主催：日本学術会議土木工学・建築 学委員会 日時：平成31年5月21日（火） 10：00～17：00 場所：日本学術会議講堂及び6- C(1)(2)(3)会議室(6階) ※第三部承認	—
提案20	公開シンポジウム 「サステイナブルな 社会に向けた科学技 術と自然界での炭 素・水素・酸素・窒 素の循環の調和」	化学委員 会委員 長、総合 工学委員 会委員 長、材料 工学委員 会委員長	B(51- 53)	主催：日本学術会議化学委員会・総 合工学委員会・材料工学委員会合同 触媒化学・化学工学分科会、科学技 術振興機構研究開発戦略センター、 JST-CREST/さきがけ「革新的反応」 領域、日本学術振興会科学研究費新 学術領域「光合成分子機構の学理解 明と時空間制御による革新的光一物 質変換系の創製」(I4LEC) 日時：平成31年4月12日（金） 13：00～17：50 場所：日本学術会議講堂 ※第三部承認	—

6. 後援

提案21	国内会議の後援をす ること	会長	—	以下の会議について、後援の申請が あり、関係する部に審議付託したと ころ、適当である旨の回答があった ので、後援することとしたい。 ①第28回国際MICEエキスポ(IME2019) 主催：一般社団法人日本コングレ ス・コンベンション・ビューロー (JCCB)、日本政府観光局(JNTO) 期間：平成31年2月28日(木) 場所：東京国際フォーラム ホール E2 参加予定者数：500名以上 申請者：一般社団法人日本コングレ ス・コンベンション・ビューロー (JCCB)理事兼事務局長 小堀守 ※国際委員会承認 ②第15回日本社会福祉学会フォーラ ム 主催：一般社団法人日本社会福祉学 会 期間：平成31年3月9日(土) 場所：北星学園大学 申請者：一般社団法人日本社会福祉 学会会長 金子光一 ※第一部承認	会長
------	------------------	----	---	---	----

			<p>③我が国の科学技術人材育成の現状と課題(第10回科学技術人材育成シンポジウム・平成30年度第2回CPD協議会シンポジウム)</p> <p>主催：公益社団法人日本工学会、科学技術人材育成コンソーシアム、CPD協議会</p> <p>期間：平成31年2月2日(土)13:30～17:50</p> <p>場所：日本大学駿河台キャンパス 1号館</p> <p>申請者：公益社団法人日本工学会会長 佐藤順一</p> <p>※第三部承認</p>
--	--	--	--

II その他

件名		資料
1.	今後の総会及び幹事会開催予定 次回幹事会は1月31日(木)13時30分開催	参考1
2.	「ゲノム編集による子どもの誕生についての日本学術会議幹事会声明」について	参考2

分野別委員会運営要綱(平成26年8月28日日本学術会議第199回幹事会決定)の一部を次のように改正する。

改正後					改正前				
別表第1					別表第1				
分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	設置期間	分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	設置期間
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
機械工学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	機械工学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	機械工学委員会機械工学の将来展望分科会	(略)	(略)	(略)		機械工学委員会機械工学の将来展望分科会	(略)	(略)	(略)
	機械工学委員会機械工学の将来展望分科会学協会連携小委員会	1. 機械工学を基盤とした学術分野および産業分野の現状や動向に関する関連学協会との情報交換の場の形成 2. 機械工学および関連分野の体系の調査 3. イノベーションの創出、および社会や国民へのさらなる貢献を目指した将来的な機械工学研究に関する具体的な事例の整理や提案に係る審議に関すること	35名以内の会員若しくは連携会員又は会員若しくは連携会員以外の者	平成30年12月19日～平成32年9月30日		(新規設置)			
	(略)	(略)	(略)	(略)		(略)	(略)	(略)	(略)
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)

この決定は、決定の日から施行する。

機械工学委員会機械工学の将来展望分科会小委員会の設置について

分科会等名：学協会連携小委員会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	機械工学委員会
2	委員の構成	35名以内の会員若しくは連携会員又は会員若しくは連携会員以外の者
3	設置目的	機械工学の将来展望分科会では、機械工学関連の各分野の専門家を集め、横断的総合技術としての機械工学のあり方について検討している。これらをもとに、イノベーションへとつなげていくために、機械工学の将来展望について検討し、マスタープランや提言としてまとめて行くことを目指している。分科会での検討を潤滑かつ有意義に行うためには、機械工学関連の学協会や、若手研究者からのインプットは必需であり、小委員会において、連携会員以外の参加者も含めて事例をもとにした情報・意見交換を行うことで、将来展望やマスタープランを具体化することを目指す。
4	審議事項	1. 機械工学を基盤とした学術分野及び産業分野の現状や動向に関する関連学協会との情報交換の場の形成 2. 機械工学及び関連分野の体系の調査 3. イノベーションの創出、及び社会や国民へのさらなる貢献を目指した将来的な機械工学研究に関する具体的な事例の整理や提案 に係る審議に関すること
5	設置期間	平成30年12月19日～平成32年9月30日
6	備考	※24期初設置

【委員会及び分科会】

○委員の追加（追加1件）

（基礎生物学委員会）

氏名	所属・職名	備考
深田 吉孝	東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻教授	第二部会員

【小委員会】

○委員の決定（新規1件）

（機械工学委員会機械工学の将来展望分科会学協会連携小委員会）

氏名	所属・職名	備考
大島 まり	東京大学大学院情報学環／生産技術研究所教授	第三部会員
菱田 公一	慶應義塾大学理工学部教授	第三部会員
荒木 稚子	埼玉大学理工学研究科准教授	連携会員
岩城 智香子	東芝電力・社会システム技術センター 機械システム開発部・熱流体機器開発担当グループ長	連携会員
上坂 充	東京大学大学院工学系研究科教授	連携会員
大竹 尚登	東京工業大学工学院教授・副学長(研究企画担当)	連携会員
岡崎 健	東京工業大学科学技術創生研究院グローバル水素エネルギー研究ユニット特命教授	連携会員
岸本 喜久雄	東京工業大学大学院理工学研究科教授	連携会員
北村 隆行	京都大学大学院工学研究科教授	連携会員
佐々木 直哉	株式会社日立製作所研究開発グループ技師長	連携会員
塩見 淳一郎	東京大学大学院工学研究科教授	連携会員
松尾 亜紀子	慶應義塾大学理工学部教授	連携会員
松本 健郎	名古屋大学大学院工学研究科教授	連携会員
宗像 鉄雄	国立研究開発法人産業技術総合研究所つくば東事業所事業所長	連携会員
森下 信	横浜国立大学理事(研究担当) 副学長・教授	連携会員
矢部 彰	国立研究開発法人産業技術総合研究所特別顧問、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構技術戦略研究センターユニット長	連携会員
山西 陽子	九州大学大学院工学研究院機械工学部門教授	連携会員

【課題別委員会】

○委員の決定（新規1件）

（科学的エビデンスに基づく「スポーツの価値」の普及の在り方に関する委員会）

氏名	所属・職名	備考	推薦
神尾 陽子	お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所人間発達基礎研究部門客員教授、国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所児童・予防精神医学研究部客員研究員	第二部会員	第二部
山極 壽一	京都大学総長	第二部会員 会長	副会長
萩田 紀博	株式会社国際電気通信基礎技術研究所（ATR）知能ロボティクス研究所長	第三部会員	第三部
美濃 導彦	国立研究開発法人理化学研究所理事	第三部会員	第三部
渡辺 美代子	国立研究開発法人科学技術振興機構副理事	第三部会員 副会長	第三部
井野瀬 久美 恵	甲南大学文学部教授	連携会員	第一部
川上 泰雄	早稲田大学スポーツ科学学術院教授	連携会員	第二部
喜連川 優	情報・システム研究機構国立情報学研究所所長、東京大学生産技術研究所教授	連携会員	第三部
高瀬 堅吉	自治医科大学大学院医学研究科教授	連携会員	副会長
田原 淳子	国士舘大学体育学部教授	連携会員	第二部
福林 徹	東京有明医療大学保健医療学部柔道整復学科特任教授	連携会員	第二部
來田 享子	中京大学スポーツ科学部教授	連携会員	第一部

日本学術会議協力学術研究団体への新規申し込み団体の概要

	団体名	概 要
1	情報法制学会	本団体は、情報、メディア等に関する法、技術及びビジネスの観点からの学術的、実務的な研究を促進するものである。
2	日本作業療法教育研究会	本団体は、人と生活を大切にする心、知識と技術、研究心などをバランス良く身に着けた作業療法士の育成へ寄与、作業療法教育のより一層の充実・発展を追求するものである。
3	日本脳神経血管内治療学会	本団体は、広く市民に対して、脳神経血管内治療及び関連する領域の学術研究、広報、調査研究及び資格認定等を行うことで、その進歩及び普及を図り、学術文化の発展と国民の福祉に寄与するものである。

4. 学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等 【平成31年度第1四半期】

<概要>

1. 日本学術会議主催学術フォーラム

- (1) 経費負担を要するものは、原則として 年間10回程度
 (2) 経費負担又は職員の人的支援を要するものは、四半期ごとに計3件まで
 (3) 土日祝日開催のものは、四半期ごとに2件まで

○今回提案【平成31年度第1四半期】 全1件

	提案番号	テーマ	開催希望日時	開催場所	経費負担	職員の 人的支援
1	提案6 [p.17-18]	危機に瀕する学術情報の現状とその将来 Part 2	平成31年 4月19日 (金)	日本学術 会議講堂	要	要

2. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等

- (1) 各年度 32回まで、及び 四半期ごとにおおむね8回
 (ともに土日祝日開催の日本学術会議主催学術フォーラムを含む)

○今回提案【平成31年度第1四半期】 全4件

	提案番号	テーマ	開催希望日時	開催場所
1	提案7 [p.19-20]	公開シンポジウム「横行する選考・採用における性差別：統計からみる間接差別の実態と課題」の開催について	平成31年 6月8日 (土)	日本学術会議 講堂
2	提案8 [p.21-22]	公開シンポジウム「男女がともにつくる民主政治」を展望する—「政治分野における男女共同参画推進法」の意義(仮一)の開催について	平成31年 4月6日 (土)	日本学術会議 講堂
3	提案9 [p.23-24]	公開シンポジウム「産業動物と食の観点からのOne health」の開催について	平成31年 5月25日 (土)	日本学術会議 講堂
4	提案10 [p.25-27]	公開シンポジウム「子どもの戸外遊びが消滅！？遊びへの社会的介入としての移動式遊び(プレーバス)」の開催について	平成31年 6月1日 (土)	日本学術会議 講堂

(参考) -----

■今回提案を含めた合計数

1. 学術フォーラム（平日 1 件/土日 0 件） 全 1 件 残り：9 件
 （内訳）※現在の 5 件につき、すべて経費及び人的負担要

		第 1 四半期 (4 月～6 月)	第 2 四半期 (7 月～9 月)	第 3 四半期 (10 月～12 月)	第 4 四半期 (1 月～3 月)
学術フォーラム	(土日)	1			
	(平日)	0			
合計		1			

2. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等（学術フォーラム含む）全 4 件 残り：28 件
 （内訳）

		第 1 四半期 (4 月～6 月)	第 2 四半期 (7 月～9 月)	第 3 四半期 (10 月～12 月)	第 4 四半期 (1 月～3 月)
シンポジウム	第一部	2			
	第二部	1			
	第三部	1			
	若手アカデミー	0			
	課題別	0			
学術フォーラム（土日）		0			
合計		4			

■承認済み案件一覧

1. 学術フォーラム

テーマ	開催日時	開催場所	経費負担	職員の 人的支援
無				

2. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等

テーマ	開催日時	主催委員会等
無		

日本学術会議主催学術フォーラム「危機に瀕する学術情報の現状とその将来 Part 2」の開催について

1. 主 催：日本学術会議
2. 共 催：無
3. 後 援：無
4. 日 時：平成31年4月19日（金）13：00～17：30
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会等の開催：無

7. 開催趣旨：

日本学術会議は2017年5月に学術フォーラム「危機に瀕する学術情報の現状とその将来」を開催した。その後の学術情報を取り巻く情勢は、オープンサイエンスのさらなる進展、学術情報の分析と大学運営に及ぼす影響、電子ジャーナル問題とその対応戦略、わが国の学会における学術雑誌の諸課題、エビデンスデータの公開、研究データの散逸や学術情報のデジタル基盤構築など、多くの課題が顕在化し、また学術情報のおかれている環境も急速に変化している。

日本学術会議は、学術の基本となる学術情報の現在を継続して検討するため、このたび、学術情報に関するフォーラムのpart2を開催する。学術情報を取り巻く現在の情勢を共有すると共に、将来に向けての活発な議論を展開したい。

8. 次 第：

司会：米田 雅子（日本学術会議第三部幹事、慶應義塾大学先導研究センター特任教授）

13:00 開会挨拶：三成 美保（日本学術会議副会長、奈良女子大学副学長・教授（研究院生活環境科学系））

13:03 趣旨説明：大野 英男（日本学術会議第三部部长、東北大学総長）

13:15 講演1： 学術情報としての政府統計（仮題）
北村 行伸（日本学術会議第一部会員、一橋大学経済研究所教授）

13:40 講演2： 学術誌をめぐる国内外の諸問題と対応策
山口 周（日本学術会議第三部会員、大学改革支援・学位授与機構研究開発部教授）

- 14:05 講演3： 学術の信頼性を損なう粗悪雑誌問題
野上 識（東京大学理学系研究科シニア・リサーチアドミニストレータ
ー）
武田 洋幸（日本学術会議第二部会員、東京大学大学院理学系研究科長・
教授）
- 14:30 講演4： エビデンスデータの公開をめぐる課題
白髭 克彦（東京大学定量生命科学研究所所長）
（休憩 15分）
- 15:10 講演5： オープンサイエンスに関する政策と方向
（文部科学省 研究振興局参事官（情報担当））
- 15:35 講演6： オープンサイエンスと情報基盤
喜連川 優（日本学術会議連携会員、情報・システム研究機構国立情報
学研究所所長、東京大学生産技術研究所教授）
- 16:00 講演7： データベース統合と研究データの散逸問題
佐々木 直哉（日本学術会議連携会員、日立製作所研究開発グループ技師
長、一般社団法人機械学会会長）
- 16:25 総合討論
司会：佐藤 岩夫（日本学術会議第一部部長、東京大学社会科学研究所長・教授）
- 17:25 閉会挨拶：武田 洋幸（同上）

（下線の講演者は、学術会議関係者）

公開シンポジウム「横行する選考・採用における性差別：
統計からみる間接差別の実態と課題」の開催について

1. 主 催：日本学術会議社会学委員会ジェンダー研究分科会
2. 共 催：検討中
3. 後 援：検討中
4. 日 時：平成31年6月8日（土）13：30～17：00
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会等の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

東京医科大の不正入試問題は多くのひとびとに衝撃を与えた。公正であるべき入試においてこんなあからさまな性差別が横行しているのか、と。その後の文科省の調査によれば医学系大学の女子の「入りにくさ」は男子の1.2倍に当たると発表された。応募者と合格者とのあいだに統計的に有意な差を証明することができればそれを間接差別という。

教育の場の選考ばかりではない。男女雇用機会均等法が募集・採用の性差別を禁止してから30年。当初は努力義務だったが、97年改正で禁止規定となったが、採用結果を見ればあいかわらず男子の採用に偏る傾向がある。個別には直接差別を証明できなくとも、ここでも応募者と合格者とのあいだに有意な差を認めることができるだろう。公正であるべき公立学校、公務員、そして、それを報道するメディア…の世界に、あってはならない性差別的な選考が横行していないだろうか。

誰もが知っていそうで暗黙のうちに既成事実化している現状を、データから明らかにし、課題と対応を検討する。

8. 次 第：

総合司会 小浜正子（日本学術会議連携会員、日本大学文理学部教授）

13:30 開会挨拶 上野千鶴子（日本学術会議連携会員、認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク理事長）

13:40 報告① 医学部入試における性差別

対馬るり子（対馬ルリ子女性ライフクリニック銀座院長）

14:00 報告② 民間企業採用人事における性差別

山口一男（シカゴ大学ラルフ・ルイス記念特別社会学教授）

- 14:20 報告③ 教員採用における性差別
河野銀子（日本学術会議連携会員、山形大学地域教育文化学部教授）
- 14:40 報告④ メディアにおける採用差別
林香里（東京大学大学院情報学環教授）
- 15:00（休憩）
- 15:20 パネルディスカッション
司会 本田由紀（日本学術会議第一部会員、東京大学大学院教育学研究科教授）
パネリスト
報告者全員
江原由美子（日本学術会議連携会員、横浜国立大学大学院都市イノベーション
研究院教授）
経済界から ※検討中
政府から ※検討中
- 16:50 閉会挨拶 遠藤薫（日本学術会議第一部会員、学習院大学法学部教授）

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「男女がともにつくる民主政治」を展望する—「政治分野における男女共同参画推進法」の意義(仮)—の開催について

1. 主 催: 日本学術会議法学委員会ジェンダー法分科会
2. 共 催: ジェンダー法学会(予定)
3. 後 援: 明治大学法科大学院ジェンダー法センター
4. 日 時: 平成31年4月6日(土) 13:30~17:00
5. 場 所: 日本学術会議講堂
6. 分科会等の開催: 開催予定

7. 開催趣旨:

平成30年5月に政治分野における男女共同参画推進法(平成30年法律第28号)が制定・施行された。この法律は、議会議員の選挙においては、男女の候補者の数ができる限り均等となることを目指すことなどを基本原則とし、政党その他の政治団体は、所属する男女のそれぞれの公職の候補者の数について目標を定めるなど、自主的に取り組むよう努めるとしている。この法律を活かすために、一方で法律の掲げる理念を正しく社会に浸透させつつ、他方で政党の努力を促す環境を整備していかなければならない。本シンポジウムでは、学術の視点から本法律の意義を明らかにするとともに、多様な立場で本法律の課題を共有し、「男女がともにつくる民主政治」を展望する。

8. 次 第:

・総合司会

廣瀬真理子(日本学術会議第一部会員、東海大学教養部教授)

13:30~

・開会挨拶

三成美保(日本学術会議副会長・第一部会員・ジェンダー法分科会委員長、奈良女子大学副学長・研究院生活環境科学系教授)

・企画趣旨/政治分野の現状とポジティブ・アクションの必要性

辻村みよ子(日本学術会議連携会員、明治大学専門職大学院法務研究科教授、東北大学名誉教授)

13:45～

〈第1部〉政治分野におけるポジティブ・アクションの意義

1. 候補者男女均等法の掲げる理念—日本版パリティ法の由来

三浦まり(上智大学法学部教授)

2. 候補者男女均等法の内容

糠塚康江(日本学術会議第一部会員、東北大学大学院法学研究科教授)

3. 海外における取組・日本における取組

(1) 内閣府の調査報告書から海外の事例を学ぶ

武田宏子(名古屋大学大学院法学研究科教授)

(2) 候補者の養成

申 琪榮(お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科准教授)

4. 候補者男女均等法をどう使う？

(1) 地方議会

大山礼子(駒澤大学法学部教授)

(2) 市民

川橋幸子(元参議院議員・Qの会役員)

〈休憩:15分〉

15:30～

〈第2部〉政治分野における男女共同参画推進法を育てる(パネル・ディスカッション)

パネリスト:各党代表者+クオータ議連+三浦+辻村

司会 紙谷雅子(日本学術会議連携会員、学習院大学法学部教授)

16:55 閉会挨拶

吉田克己(日本学術会議連携会員、北海道大学名誉教授)

9. 関係部の承認の有無:第一部承認

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム「産業動物と食の観点からの One health」の開催について

1. 主 催：日本学術会議食料科学委員会獣医学分科会、日本学術会議農学委員会・食料科学委員会合同食の安全分科会、日本学術会議食料科学委員会畜産学分科会

2. 共 催：なし

3. 後 援：なし

4. 日 時：平成31年5月25日（土） 13：30～17：00

5. 場 所：日本学術会議講堂

6. 分科会等の開催：開催予定（獣医学分科会、食の安全分科会）

7. 開催趣旨：

産業動物と食の観点からの One health というテーマのもと、産業動物と人間とが関係するトピックスについてシンポジウムを開催する。特に畜産業のサステナビリティを考える上での認証評価制度を中心に引き上げ、この分野の現状を広く知ってもらう機会とする。

8. 次 第：(予定)

座長 池田 正浩（日本学術会議連携会員、宮崎大学農学部教授）

柏崎 直巳（日本学術会議連携会員・畜産学分科会副委員長、麻布獣医学園理事長）

13時30分～13時40分

開会の挨拶 高井 伸二（日本学術会議第二部会員・獣医学分科会委員長、北里大学副学長・獣医学部長）

13時40分～14時10分

GAP の概要紹介 武田 泰明（認定 NPO 法人 GAP 総合研究所専務理事）

14時10分～14時40分

大学における GAP 取り組み事例 小林 郁雄（宮崎大学農学部准教授）

休憩 14時40分～15時00分

15時00分～15時30分

動物用抗菌剤の使用量と削減の取り組み 杉浦 勝明（東京大学教授）

15時30分～16時00分

アニマルウェルフェア関連 八木 淳公（畜産技術協会）

16時00分～16時30分

動物行政 山野 淳一（農林水産省消費・安全局食品安全政策課・食品安全危機管理官）

16時30分～17時00分

畜産物の輸出戦略 大野 高志（中央畜産会）

閉会の挨拶 眞鍋 昇（第二部会員 畜産分科会委員長 大阪国際大学 学長補佐）

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「子どもの戸外遊びが消滅！？遊びへの社会的介入としての移動式遊び（プレーバス）」の開催について

1. 主 催：日本学術会議心理学・教育学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会・環境学委員会・土木工学・建築学委員会合同子どもの成育環境分科会
2. 共 催：公益社団法人こども環境学会（予定）
3. 後 援：文部科学省（予定）（本シンポジウムは文部科学省による日独青少年教育交流事業によるプログラムの一貫で行うものである）、日本ユニセフ協会、日本小児医療保険協会（予定）、特定非営利活動法人日本冒険遊び場づくり協会
4. 日 時：平成31年6月1日（土）13：00～17：00
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会等の開催：開催予定
7. 開催趣旨：

子どもの成育環境分科会では10年前に提言にまとめた子どもの成育空間に関する提言に続いて、より現実的な施策に反映するべく関連省庁の担当職員を参考人に検討を重ねてきた。様々な調査で明らかになっている戸外遊びの減少は、体力の低下のみならず、やる気、応用力など非認知能力獲得への影響も指摘される。都市や農山漁村部の空間は社会的要因も含めて、子どもが遊ぶ空間とならなくなっている。ドイツでは子どもの遊びを活性化し、学び、成長を支援するSpielpaedagoge（遊び教育家）という専門領域が確立し、大学等でも養成課程が設けられている。またプレーバスなど移動式の機材をもって空間を劇的に遊び場に変容させるシステムが発展している。文部科学省の日独青少年教育交流事業の一環で来日する専門家を交えて、日本での遊びへの介入（intervention）の方策について、これまでの議論を踏まえて展望する。
8. 次 第：（いずれも現段階の予定案）
 司会：三輪 律江（日本学術会議連携会員、第24期子どもの成育環境分科会幹事、横浜市立大学国際総合科学部国際都市学系まちづくりコース准教授）

記録：齋尾 直子（日本学術会議連携会員、第24期子どもの成育環境分科会幹事、東京工業大学環境・社会理工学院建築学系准教授）

13：00 挨拶

五十嵐 隆（日本学術会議連携会員、第22期子どもの成育環境分科会委員長、国立研究開発法人国立成育医療研究センター理事、公益社団法人こども環境学会会長）

13：10 主旨説明

木下 勇（日本学術会議連携会員、第24期子どもの成育環境分科会委員長、千葉大学大学院園芸学研究科教授、公益社団法人こども環境学会副会長）

13：30 なぜ移動式遊び (Mobile Play)、プレーワーカー (Spielpaedagoge) が今の子どもに必要か (仮題) (逐次通訳)

Gerhard Knecht (ドイツ移動式遊び連合代表、Spiel Landschaft e.V. 代表)

14:20 ドイツにおいて遊びの専門家 (Spielepaedagoge) が定着するまで (逐次通訳)

Karla Leonhard Zacharias (Spielkultur Paedagogische Aktion e.V.)

15：10－15：20 (休憩)

15：20 日本における移動式遊びの展開

1) 東日本大震災後のプレーカー

須永 力 (一般社団法人 プレーワーカーズ代表理事)

2) 街路を遊び場へと介入するプレーカー

星野 諭 (NPO 法人 コドモワカモノまち ing 代表理事)

15：50 総合討論

パネリスト

Gerhard Knecht (前掲)

Karla Leonhard Zacharias (前掲)

須永 力 (前掲)

星野 諭 (前掲)

コメンテーター

仙田 満（日本学術会議特任連携会員、第21期子どもの成育環境分科会委員長、東京工業大学名誉教授、建築家）

内田 伸子（日本学術会議連携会員、第23期子どもの成育環境分科会委員長、お茶の水女子大学名誉教授、十文字学園女子大学

特任教授・理事)

コーディネーター：木下 勇 (前掲)

17：00 閉会

9. 関係部の承認の有無：第一部・第二部・第三部承認

(下線の登壇者は、主催分科会委員)

(案)

地方学術会議「日本学術会議 in 北海道」の開催について

1. 主 催 日本学術会議
2. 共催 (予定) 第一部, 第二部 なし
第三部 北海道大学
3. 日 時 平成31年2月16日(土) 9:30~16:45
4. 会 場 ANAクラウンプラザホテル札幌
第一部, 第二部 3階 孔雀 (定員42名), 第三部 3階 祥雲 (定員200名)
5. 対 象 第一部 北海道在住の日本学術会議会員、連携会員、日本学術会議関係者及び指定演者
※北海道在住以外の日本学術会議会員及び連携会員で希望する者の参加も可とする。
第二部 北海道在住の日本学術会議会員及び連携会員、日本学術会議関係者
第三部 一般の方、研究者 (若手研究者を含む)、産業界の方、学部生や大学院生
6. 概 要
(テーマ)
第一部 多様性・共生の地域社会を目指して
第二部 (仮題) 日本学術会議及び北海道地区会議の活動について
第三部 (仮題) Society 5.0 で北海道が変わる (AI・IOT・RT 技術の地方深化)

(開催趣旨)

第一部

国連が提唱したSDG`sにおける最も重要なメッセージの一つは、共生と多様性である。北海道は、広大で多様な自然・生態系をフィールドとして、多くの異なる文化背景を持つ人々による共生と多様性を実現する場であった。また、最近では、小さな移民に匹敵する規模の外国人観光客の増加など、本邦における多様性の実現と共生が実践されてきた地域である。

北海道は、新しい生態系・社会の形成、文化・習慣の融合という点で、本邦でも特異な位置を占め、先進的な役割を果たしてきた。その一つの牽引力として、寛容性が高く、既存の習慣に固執しない「北海道人」の指向特性、気質の形成が影響しているように思われる。北海道における既存の生態系の急激な変化と新しい地域社会の形成などのダイナミズムは、わが国においても、突出したものがあり、そのダイナミズムは、北海道に対して、大きな変容のエネルギーをもたらしてきた。

しかし、今日、日本社会が少子高齢化の急激な進行に伴い人口増加から人口減少に転換し、様々な大きな社会変化を惹起し始めている。北海道においては、「開拓」のエネルギーが急速に低下するなかで、「フロンティア性」が問い直されているように思われる。言い換えると、北海道の社会は、新たな多様性の受容、共生の理念の形成を迫られているように思われる。それは、例えば、急激な人口減による地域社会の衰退とそれに伴う生態系の急激な変容、それと対をなす都市部への人口集中が引き起こす不都合な均一性と、人間を含めたエコロジーの急激な変化などである。

本年、新たに創設された日本学術会議の地方学術会議の使命は、地域の科学者の交流と地域社会への貢献であり、地域の特性を強く反映した学術的テーマが求められているように思われる。そこで、本地方学術会議では、上記の北海道的な地域社会の課題を踏まえ、「生態系からの視点」「人と動物の視点」、「多文

化社会実現の視点」、「男女共同参画社会の視点」から、北海道における、新しい多様性・共生の在り方を考える機会を提供する。

第二部（科学者との懇談会）

日本学術会議や北海道地区会議の今年度の活動報告を行い会員及び連携会員等と意見交換を行う。

第三部（学術講演会（北海道地区会議主催））

第5期科学技術基本計画では、世界に先駆けた「超スマート社会」の実現、すなわち Society5.0 が掲げられています。AI, IOT, ネットワーク等の高度な情報技術の活用を、ものづくりだけではなく、様々な分野に広げ、経済成長や健康長寿社会の形成、さらには社会変革につなげていくものです。科学技術の成果があらゆる分野や領域への浸透を促し、地域社会にも大きな変革が期待されている。

そこで Society 5.0 が地域、特に北海道にとってどのような期待と可能性があるのか、それぞれ専門の立場から講演をいただく。

（プログラム）

第一部

(1) 開催挨拶

9:30～9:40 山極 壽一（日本学術会議会長・京都大学総長）

9:40～9:50 寶金 清博（日本学術会議第二部会員、北海道地区会議代表幹事・北海道大学副学長、北海道大学病院長）

(2) 学術シンポジウム 『多様性・共生の地域社会を目指して』

9:50～12:30 座長

加藤 昌子（日本学術会議第三部会員・北海道大学大学院理学研究院教授）

宇山 智彦（日本学術会議連携会員・北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授）

1. 北海道が目指す動物と人の共生とは

坪田 敏男（北海道大学大学院獣医学研究院教授）

2. 気候変動・人口減少と北海道の生態系の保全

森本 淳子（日本学術会議連携会員・北海道大学大学院農学研究院准教授）

3. 北海道から挑戦する未来の学びの場のデザイン

美馬 のゆり（日本学術会議連携会員・公立ほこだて未来大学システム情報科学部教授）

4. 女性の社会参加と北海道の今後

今井 晋（北海道大学大学院経済学研究院教授）

第二部（科学者との懇談会）

(1) ランチミーティング

12:30～13:15 日本学術会議の概要、北海道地区会議の活動報告等

第三部（学術講演会（北海道地区会議主催））

司 会 但野 茂（日本学術会議第三部会員・（独）国立高等専門学校機構理事、
函館工業高等専門学校学校長）

(1) 開催挨拶

13:30～13:50 山極 壽一（日本学術会議会長・京都大学総長）（予定）
名和 豊春（日本学術会議連携会員・北海道大学総長）（予定）

(2) 講演

13:50～14:30 Society5.0時代における科学技術・イノベーション政策
山脇 良雄（文部科学省文部科学審議官）

14:30～14:40 休憩

14:40～15:20 ロボット技術とその知能化～現状と社会実装加速に向けての将来展望～
浅間 一（日本学術会議第三部会員・東京大学大学院工学系研究科教授）

15:20～16:00 農業における Society5.0 の実現に向けて
野口 伸（日本学術会議連携会員・北海道大学大学院農学研究院副研究院長）

16:00～16:10 休憩

(3) 総合討論（省略あり）

16:10～16:35 座長
但野 茂（日本学術会議第三部会員・（独）国立高等専門学校機構理事、
函館工業高等専門学校学校長）

(4) 閉会挨拶

16:35～16:45 寶金 清博（日本学術会議第二部会員、北海道地区会議代表幹事・北海道大学副学長、
病院長）

以上

公開シンポジウム「国立自然史博物館の設立を目指して
～沖縄の未来形成に果たす役割と責務～」開催について（案）

1. 主 催：日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同動物科学分科会、日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会・地球惑星科学委員会合同自然史・古生物学分科会
2. 共 催：琉球大学、国立沖縄自然史博物館設立準備委員会、沖縄科学技術大学院大学、沖縄美ら島財団、沖縄生物学会、沖縄県（予定）
3. 後 援：沖縄経済同友会（予定）、沖縄県経営者協会（予定）
4. 日 時：平成31年2月1日（金）13:00～17:00
5. 場 所：沖縄銀行本店5階ホール
（〒900-8651 沖縄県那覇市久茂地3丁目10-1）
6. 分科会の開催：開催予定なし
7. 開催趣旨：
学術会議は2016年5月に「国立自然史博物館設立の必要性」という提言を発出した。提言のフォローアップ活動の一環として公開シンポジウムを開催する。自然史博物館は標本を収蔵し、自然史研究を推進し、教育・普及・展示も行う機関であるが、観光拠点としても重要である。本シンポジウムでは自然史博物館の学術研究への貢献及び社会的貢献について検討する。

8. 次第：

13:00～13:10

挨拶：西田 睦（日本学術会議連携会員、琉球大学理事・副学長）

13:10～15:35

第一部

基調講演1 国立沖縄自然史博物館構想

岸本健雄（日本学術会議連携会員、お茶の水女子大学客員教授）

基調講演2 九州国立博物館の誘致活動と設立後の役割

赤司善彦（市民ミュージアム大野城心のふるさと館館長、九州国立博物館名誉館員）

沖縄経済の持続可能な発展に果たす自然史博物館の役割

沖縄社会の塾生と発展に果たす企業の役割と責任

伊波一也（沖縄銀行常務取締役）

自然史標本の社会的意義

松浦啓一（日本学術会議連携会員、国立科学博物館名誉研究員）

ジオパーク～自然史と社会をつなぐ～

渡辺真人（産業技術総合研究所、ユネスコ世界ジオパーク評議員）

自然史を応用して地域独自の観光コンテンツを創る
宮崎 悠 (キュリオス沖縄代表理事)

15:35～15:40 休憩

15:40～16:50

第二部：パネルディスカッション

司会：西田 睦 (日本学術会議連携会員、琉球大学理事・副学長)

パネリスト：赤司善彦 (市民ミュージアム大野城心のふるさと館館長、九州国立博物館名誉館員)、伊波一也 (沖縄銀行常務取締役)、大浜浩志 (沖縄県環境部部長)、岸本健雄 (日本学術会議連携会員、お茶の水女子大学客員教授)、松浦啓一 (日本学術会議連携会員、国立科学博物館名誉研究員)、馬渡駿介 (北海道大学名誉教授)、宮崎 悠 (キュリオス沖縄代表理事)、渡辺真人 (産業技術総合研究所、ユネスコ世界ジオパーク評議員)、斎藤成也 (日本学術会議連携会員、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立遺伝学研究所教授)

16:50～17:00

閉会の挨拶：長濱嘉孝 (基礎生物学研究所名誉教授)

9. 関係部の承認の有無： 第二部承認

(下線の登壇者は、主催分科会委員)

公開シンポジウム「国公私大の地域を超えた役割と連携：未来社会と応用物理」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議総合工学委員会未来社会と応用物理分科会
公益社団法人応用物理学会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成 31年 3月 9日（土）9：50 ～ 12：20
5. 場 所：東京工業大学 大岡山キャンパス
6. 分科会等の開催：なし
7. 開催趣旨：応用物理は産業と密接に関わる学問である。ゆえに大学が国・地域の産業から孤立することは許されない。それどころか、世界の中の大学として海外産業との連携も視野に入れなければいけない。しかし、国立大学・公立大学・私立大学では主要財源が異なり、さらには大学ごとの個性や社会から求められる役割も同じとは言えない。本シンポジウムでは、多様性に基づく新しい協調を探り、応用物理と未来社会を切り拓くために必要な地域を超えた国公私大の役割と連携を議論する。
8. 次 第：
 - 09：50 開会の辞
財満鎮明（日本学術会議連携会員、名古屋大学未来材料・システム研究所教授、応用物理学会会長）
 - 09：55 企画の意図
松尾由賀利（日本学術会議第三部会員、法政大学理工学部教授、「未来社会と応用物理分科会」委員長）
 - 10：00 講演「国公立大学連携の道：私立の立場から、国立の立場から」
榊裕之（日本学術会議連携会員、豊田工業大学学長）
 - 10：35 講演「地方国立大学のこれからの役割」
渡辺敦司（教育ジャーナリスト）

11：10 休憩

11：20 総合討論

(司会) 松尾由賀利 (日本学術会議第三部会員、法政大学理工学部教授)、「未来社会と応用物理分科会委員長」

(パネラー)

榊裕之 (豊田工業大学学長)

渡辺敦司 (教育ジャーナリスト)

奥村次徳 (地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター理事長、
首都大学東京元副学長)

為近恵美 (日本学術会議連携会員、横浜国立大学成長戦略研究センター教授)

喜多 隆 (神戸大学大学院工学研究科教授)

12：15 閉会の辞

中野義昭 (日本学術会議第三部会員、東京大学大学院工学系研究科電気系工学専攻教授)

12：20 終了

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム「天文学の100年：過去から未来へ
—国際天文学連合100年記念シンポジウム—」の開催について

1. 主 催：日本学術会議物理学委員会 IAU 分科会
2. 共 催：日本天文学会、自然科学研究機構国立天文台、宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所(すべて予定)
3. 後 援：日本天文協議会(予定)
4. 日 時：平成31年5月27日(月) 13:00~17:00
5月28日(火) 10:00~17:00
5. 場 所：国立科学博物館講堂
6. 分科会等の開催：開催予定なし
7. 開催趣旨：国際天文学連合が創立100周年を迎えるに当たり、創立時より関わった7カ国の一つである日本の天文学のこれまでの100年を振り返りつつ、これからの100年を見通すことで、アマチュア天文家や公開天文台とともに歩んできた日本の天文学の独自性や特殊性を浮き彫りにしつつ、本分野における今後の研究の振興をはかるためのシンポジウムを開催するものである。
8. 次 第：
プログラム骨子(案)
10:00 はじめに(渡部潤一(日本学術会議連携会員・物理学委員会 IAU 分科会長、国立天文台副台長))

第一日目 第I部 これまでの100年から

【司会 柴田一成】

- ① 日本の天文学の発展： これまでの100年とこれから
講演者：海部宣男(日本学術会議連携会員、元 IAU 会長)
- ② 市民の天文学： 彗星・新星ハンター、愛好者グループの活躍
講演者：山岡均(国立天文台)
- ③ 社会とつながる天文学：公開天文台とプラネタリウムの大発展
講演者：井上毅(明石市立天文館長)

<休憩>

④ 生まれ続ける新たな宇宙像

講演者：須藤靖（予定、日本学術会議連携会員、東京大学教授）

⑤ 総合討論 1

第二日目 第II部 これからの100年へ

【司会：観山正見（日本学術会議連携会員、広島大学教授）】

① 分野を超えて新しいテーマと共同が生まれる

講演者：村山斉（予定、日本学術会議連携会員、東京大学教授）

② 科学で夢を育てる： 新時代のメディア・教育と天文学

講演者：青野由利（毎日新聞論説委員）

<休憩・昼食>

③ 天文学と地域共同・地域振興のこれから

講演者：渡部潤一（国立天文台）

④ 学術コミュニティと大型望遠鏡・共同利用：日本での発展と展開、これから

講演者：山崎典子（日本学術会議第三部会員、JAXA宇宙科学研究所教授）

⑤ 新時代の国際共同を見通す

講演者：小林秀行（国立天文台教授）

<休憩>

⑥ 日本の長期的な学術政策と天文学の未来(コメント)

講演者：天文・物理若手（若手・キャリアパス問題など）

船田元（予定、自由民主党）

新妻ひでき（予定、元文部科学省政務官、公明党）、

古賀ゆきひと（予定、国民民主党・新緑風会）、

⑦ 総合討論 2

9. 関係部の承認の有無： 第三部承認

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム『素粒子物理・原子核物理分野の「大型施設計画・大規模研究計画マスタープラン」に関するシンポジウム』の開催について

1. 主 催： 日本学術会議物理学委員会 素粒子物理学・原子核物理学分科会

2. 共 催：なし

3. 後 援：なし

4. 日 時：平成30年2月19日（火）10：00～18：00

5. 場 所： 日本学術会議講堂

6. 分科会の開催：同日の12：20～13：30に分科会を開催する予定。

7. 開催趣旨：

「大型施設計画・大規模研究計画マスタープラン」の募集にあたり、提案（改訂）を予定している素粒子・原子核物理学分野の大型施設計画・大規模研究計画について情報交換を行い、当該分野の今後の研究の進め方について意見交換を行う。

8. 次 第：

（登壇者や時間、講演題目について変更の可能性があります）

10:00-10:10 マスタープラン改定について 田村 裕和（東北大学理学研究科教授、日本学術会議第三部会員・物理学委員会 素粒子物理学・原子核物理学分科会委員長）

10:10-10:45 原子核分野の展望 永江 知文（京都大学理学研究科教授、日本学術会議連携会員・物理学委員会 素粒子物理学・原子核物理学分科会委員）

10:45-11:10 J-PARC ハドロン施設拡張 澤田 真也（KEK/J-PARC）

11:10-11:35 RIBF 高度化 櫻井 博儀（東京大学理学系研究科教授/理化学研究所仁科加速器科学研究センター副センター長、日本学術会議連携会員・物理学委員会 素粒子物理学・原子核物理学分科会委員）

11:35-12:00 高エネルギー重イオン実験(J-PARC HI, LHC/RHIC) 三明 康郎（筑波大学数理物質系教授）

12:00-12:20 Electron Ion Collider 後藤 雄二（理化学研究所仁科加速器科学研究センター前任研究員）

12:20-13:30 休憩

- 13:30-14:05 素粒子分野の展望 市川 温子 (京都大学理学研究科准教授、日本学術会議連携会員・物理学委員会 素粒子物理学・原子核物理学分科会委員)
- 14:05-14:30 SuperKEKB 樋口 岳雄 (東京大学カブリ数物連携宇宙研究機構 国際高等研究所准教授)
- 14:30-14:55 HL-LHC 花垣 和則 (高エネルギー加速器研究機構素粒子原子核研究所教授)
- 14:55-15:20 ILC 山下 了 (東京大学素粒子物理国際研究センター特任教授)
- 15:20-15:40 休憩
- 15:40-16:05 Hyper-Kamiokande 中家 剛 (京都大学理学研究科教授)
- 16:05-16:30 J-PARC MR の大強度化と素粒子実験 坂下 健 (高エネルギー加速器研究機構素粒子原子核研究所准教授)
- 16:30-16:50 非加速器素粒子原子核実験のレビュー 井上 邦雄 (東北大学ニュートリノ科学研究センター長)
- 16:50-17:10 CMB のレビュー 石野 宏和 (岡山大学自然科学研究科教授)
- 17:10-18:00 全体討論

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム

「AI 時代のもの・コトづくりに向けた新たな計算科学活用における課題と期待」
開催について

1. 主 催：日本学術会議総合工学委員会・機械工学委員会合同
計算科学シミュレーションと工学設計分科会
2. 共 催（予定）：一般社団法人日本機械学会、一般社団法人日本応用数理学
会、一般社団法人日本計算工学会、一般社団法人日本シミュレーション学会、
一般社団法人可視化情報学会
3. 協賛(予定)：公益社団法人日本自動車技術会
4. 日 時：平成 31 年 2 月 14 日（木）13：00～18：00（予定）
5. 場 所：日本学術会議講堂
利用する会議室数 1、使用目的：計算科学を基盤とした産業競争力強化の検討小
委員会の開催
6. 分科会等の開催：開催予定あり。計算科学を基盤とした産業競争力強化の検討
小委員会の開催

7. 開催趣旨：

AI やデータ、情報科学との連携を視野に入れた新たなもの・コトづくりの手法として、計算科学に関するシミュレーション技術の効果的活用はサイバーフィジカルシステム（CPS）を推進する上で、重要度がこれから増々増加して行くと考えられる。

その中で、シミュレーションソフトウェアの現状を産業への実装を中心とした視点から俯瞰しながら、計算科学の研究成果を産業競争力強化に寄与しうる技術として発展させて裾野を広げ、それにより計算科学基盤を強化するという好循環を実現するため、今後解決すべき技術的・政策的課題、必要とされる人材およびその育成、ソフト開発者モチベーションの向上、情報分野など他分野との連携のあり方などについて議論を行う。

8. 次 第：

司会：大出 真知子（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人物質・材料研究機構構造材料研究拠点主任研究員）

13:00-13:05 開催の挨拶

越塚 誠一（日本学術会議連携会員、東京大学工学研究科教授）

13:05-13:10 シンポジウム趣旨説明

佐々木 直哉（日本学術会議連携会員、(株) 日立製作所 技師長）

テーマ 1：先端技術の動向：

13:10-13:50 国産ソフトの戦略、産学連携の現状、汎用ソフトウェアの動向

加藤 千幸（日本学術会議連携会員、東京大学 生産技術研究所 教授）、

常行 真司（日本学術会議連携会員、東京大学大学院理学系研究科教授）

テーマ 2：産業競争力強化のための重要因子の全体像：

13:50-14:20 AI 等データ活用時代における解析品質 V&V の考え方

吉田 有一郎（東芝インフォメーションシステムズ (株) プロフェッションエグゼクティブ）

14:20-14:50 計算科学における、AI、データ活用との連携のあり方

櫻井 鉄也（筑波大学 大学院システム情報工学研究科 教授）

14:50-15:20 人材育成と評価

萩原 一郎（日本学術会議連携会員、明治大学研究知財戦略機構特任教授）

15:20-15:50 ソフトウェア利活用における現状と課題（現状のエコシステムの課題）

吉村 忍（日本学術会議第三部会員、東京大学大学院工学研究科教授）

15:50-16:00 （ 休憩 ）

テーマ 3：総合討論

16:00-17:30 計算科学シミュレーションプログラムの開発、維持、管理、普及における産業競争力強化のためのモチベーション向上、エコシステムはどうあるべきか？

（司会）金田 千穂子（日本学術会議連携会員、(株) 富士通研究所シニアエキスパート）

討論の視点：

- ・三者の関係性の最適化；公的研究機関、ユーザー、ソフトウェア会社
- ・これから求められる人材像とその育成のための環境整備（人材交流の制度改革含む）

- ・国内のソフトウェア開発側のモチベーションの向上（インダストリアルファクタの提案）

（コメンテーター）

越塚 誠一（日本学術会議連携会員、東京大学工学研究科教授）

加藤 千幸（日本学術会議連携会員、東京大学生産技術研究所教授）

常行 真司（日本学術会議連携会員、東京大学大学院理学系研究科教授）

吉田 有一郎（東芝インフォメーションシステムズ (株) プロフェッションエグゼクティブ）

櫻井 鉄也（筑波大学大学院システム情報工学研究科教授）

萩原 一郎（日本学術会議連携会員、明治大学研究知財戦略機構特任教授）

吉村 忍（日本学術会議第三部会員、東京大学大学院工学研究科教授）

大富 浩一（明治大学客員研究員）

17:30-17:40 閉会の挨拶

佐々木 直哉（日本学術会議連携会員、株式会社日立製作所技師長）

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

（下線の登壇者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「免震・制振データ改ざんの背景と信頼回復への道筋」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議 土木工学・建築学委員会
2. 共 催：なし
3. 後 援：(予定)
学会：日本建築学会、土木学会、日本地震工学会、防災学術連携体
協会：日本建築構造技術者協会、日本免震構造協会
4. 日 時：平成31年1月15日(火) 13:30～17:30
5. 場 所：日本学術会議講堂及び6-C(1)(2)(3)会議室(6階)
6. 分科会等の開催：なし

7. 開催趣旨：

本年10月に公表されたオイルダンパーの出荷検査のデータの改ざん、2015年3月の免震積層ゴムのデータの改ざんは、市民、不動産業界、建設業界に多大な混乱を招いている。いずれの製品も構造物に組み込まれているため、検査や取り替えは容易でない。

世界に先駆けて地震国日本において研究が進み、実用化が図られてきた免震構造や制振構造の信頼性が揺らいでいる。地震に負けない構造物を造るためには、免震や制振の製品の性能を担保することが重要であることは論をまたない。これまで、重要な製品の性能確認を製造会社の自社出荷検査に任せてきたことに直接的な原因があるが、品質管理方法に関して徹底した原因究明のもと、性能確認試験データ改ざんの再発防止策を講じる必要は大きい。

この問題については、出荷される免震・制振製品が十分な品質を確保していることを検証する上で、信頼できる第三者による抜き取り検査体制の確立、海外にあるような本格的な実験設備を備えた検査機関の設置の2点が解決の糸口になると考えるが、シンポジウムでは、一つの提案を行い、講演者、会場の方々と真剣な議論を行い、信頼回復のためのより良い道筋を見出したい。

8. 次 第：

- 司会 依田 照彦（日本学術会議連携会員、早稲田大学名誉教授）
- 13:30 開会及び趣旨説明
米田雅子（日本学術会議第三部会員、土木工学・建築学委員会委員長、慶應義塾大学先導研究センター特任教授）
- 13:40 免震・制振部材およびそれを用いた建物の認定の現状
竹内 徹（日本学術会議連携会員、東京工業大学建築学系教授）
- 14:00 検査データの改ざんと免震・制震の地震応答
齊藤 大樹（日本学術会議連携会員、豊橋技術科学大学建築・都市システム学系教授）
- 14:20 高減衰免震ゴムの検査データ捏造と取替え工事
高山 峯夫（福岡大学工学部建築学科教授）
- 14:40 オイルダンパーの検査データ改ざんと取り替え工事
山中 昌之（大林組設計本部副本部長）
- 15:00 橋梁用における免震支承および制振ダンパーの性能保証
高橋 良和（日本学術会議連携会員、京都大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻教授）
- 15:20 免震・制振部材の実大実験をめぐる国内外の状況
笠井 和彦（東京工業大学特任教授）
- 15:40 休憩
- 15:50 免震・制振の信頼回復への一提案
和田 章（日本学術会議連携会員、東京工業大学名誉教授）
- 16:10 総合討論「信頼回復への道筋」
コーディネータ 和田 章（前述）
- 17:25 閉会挨拶
前川宏一（日本学術会議第三部会員、土木工学・建築学委員会副委員長、横浜国立大学都市イノベーション研究院都市地域社会専攻教授）
- 17:30 終了

9. 関係部の承認の有無： 第三部承認

（下線の講演者等は、主催委員会委員）

公開シンポジウム「第65回構造工学シンポジウム」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 土木工学・建築学委員会
2. 共 催：公益社団法人土木学会、一般社団法人日本建築学会
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成31年4月20日（土）～21日（日）
5. 場 所：
 関東学院大学金沢八景キャンパス 3号館
 （横浜市金沢区六浦東1-50-1）
6. 分科会の開催：なし
7. 開催趣旨：

構造工学シンポジウムでは、主として土木構造物・建築構造物にかかわるすべての工学技術について、目的・方法・結論等の明記された、理論的または実証的な研究論文、あるいは新しい知見を含み学術的に価値の高い、特色のある資料・調査・計画・実験・施工等、構造工学の発展に寄与すると考えられる論文の募集を行う。投稿論文のうち、査読を通過した論文の発表講演と討議、特別講演、パネルディスカッションをこのシンポジウムで行う。

パネルディスカッションは、「AI, IoT が拓く構造工学の未来」と題して議論したいと考えている。また特別講演もこのテーマに準じた内容を予定している。

近年の情報通信技術の発達は目覚ましい。特に、AI(人工知能)やIoT(モノのインターネット)の各技術に代表されるように、大量のデータの流通と蓄積、そしてそれらの利活用により、社会に大きな変革が起きつつある。AIは、大量の蓄積データと高い計算能力に基づく深層学習(ディープラーニング)により、その第三次ブームが到来しており、画像認識・音声認識等で高い性能が示されている。IoTは、その名の通り、従来のコンピュータ同士だけでなく、デジタルカメラや家電、機械等、様々なモノまでが通信機能を有し、互いの状況を把握し、操作することができる技術である。これらAIやIoTにより、産業界の各方面で、生産性向上、コスト縮減、迅速化等への期待が高まっている。

これらの動きは、技術者不足が深刻化し、工期短縮も求められる建設分野にとっても全くもって無縁ではない。i-Constructionの掛け声の下に、AIやIoTなどの情報通信技術を全面的に活用した建設業の生産性向上に向けた取り組みがなされている。施工に限らず、構造設計、維持管理におけるモニタリング等の様々な段階で研究開発と実務への適用がなされており、これらはまさに構造工学の学問領域と重なっている。一方で、大量のデータをいかに効率的に入

手、学習させ、またいかに一定の信頼性が保証された成果を得るかには、学問的にも、またそれを活用するエンジニアにとっても、依然として課題も多い。本パネルディスカッションでは、AI、IoTに関する構造工学分野における研究開発と構造エンジニアによる利活用の現状と課題を整理した上で、今後に向けた展望について議論したい。

8. 次 第：

(1) 一般講演

(2) パネルディスカッションおよび特別講演

司会 北原 武嗣 (土木学会構造工学論文集編集小委員会委員長、
関東学院大学理工学部土木学系教授)

【4月20日】

○ 一般講演 (9:00~18:00)

○ 開会式 (15:00~15:10)

挨拶 米田 雅子 (日本学術会議第三部会員、土木工学・建築学委員会委員長、慶應義塾大学先端研究センター特任教授)

前川 宏一 (日本学術会議第三部会員、土木工学・建築学委員会副委員長、横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院教授)

○ 特別講演 (15:10~16:10)

櫻井 彰人 (横浜国立大学先端科学高等研究院 IAS 教授)

タイトル 「情報学から見た AI 技術の将来展望—AI と構造工学の融合—」

○ パネルディスカッション (16:15~18:05)

タイトル 「AI, IoT が拓く構造工学の未来」

パネリスト基調講演

・全 邦釘 (愛媛大学大学院理工学研究科生産環境工学専攻准教授)

・土橋 浩 (首都高速道路株式会社執行役員)

・金田 充弘 (東京藝術大学美術学部建築科准教授、Arup シニアアソシエイト)

・九嶋壮一郎 (株式会社竹中工務店設計部構造部門)

○ 全体総括 (18:05~18:15)

北原武嗣 (前掲)

【4月21日】

○ 一般講演 (9:00~18:00)

プログラムは投稿論文の査読後に決定。

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

(下線の講演者等は、主催委員会委員)

公開シンポジウム「第 32 回環境工学連合講演会」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 土木工学・建築学委員会
2. 共 催：公益社団法人化学工学会、公益社団法人環境科学会、環境資源工学会、公益社団法人空気調和・衛生工学会、○一般社団法人資源・素材学会、公益社団法人地盤工学会、一般社団法人静電気学会、公益社法人大気環境学会、公益社団法人土木学会、日本 LCA 学会、公益社団法人日本化学会、一般社団法人日本機械学会、一般社団法人日本建築学会、公益社団法人日本水道協会、公益社団法人日本セラミックス協会、一般社団法人日本鉄鋼協会、一般社団法人日本土壌肥料学会、公益社団法人日本分析化学会、公益社団法人日本水環境学会、一般社団法人廃棄物資源循環学会（○印は幹事学会）
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成 31 年 5 月 21 日（火） 10：00～17：00
5. 場 所：日本学術会議講堂及び 6-C(1)(2)(3)会議室(6階)
6. 分科会等の開催：土木工学・建築学委員会企画分科会環境工学連合小委員会を開催予定

7. 開催趣旨：

「限界の認識と目標の達成」を総合テーマとして、官・学・民の研究者および技術者による学術成果、技術成果の発表、討議を通じ、バランスのとれた環境工学の発展を意図して行う。

持続可能性を論じるとき、その背後にある地球の限界について、我々は様々な知見を積み重ねつつ議論し続けてきた。近年で言えば、Rockströmらにより提唱された Planetary Boundaries が注目される場所である。他方で、持続可能な開発実現のための 17 の目標からなる持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals (SDGs)）が 2015 年に国連において採択され、その実現のために様々なアプローチが検討、実施されつつある。ただし、こうして我々が地球の限界を認識し、目標を設定、その達成に取り組もうとした時、我々の側にも技術、時として経済・社会システムも含め、やはり限界がある。

そこで、次回の環境工学連合講演会は、それぞれの学協会の立場から、地球の限界と我々の限界を見つめ直し、我々が今設定、またこれから考えるべき目標との関係について議論する場としたい。

8. 次 第：

○開会挨拶：米田雅子（日本学術会議第三部会員、慶応義塾大学先導研究センター特任教授）

○基調講演：中村 崇（日本学術会議第三部会員、東北大学名誉教授）

○パラレルセッション：昼休みを挟み 10 講演×2 パラレル=20 講演 を予定。

○パネルディスカッション：
各パラレルセッション座長と基調講演者他

○閉会挨拶：嘉門 雅史（日本学術会議連携会員、京都大学名誉教授）

今回、本講演会としては初の試みとして、パラレルセッション及びパネルディスカッションを導入する。これは、これまでの講演会に比べ、1 講演あたりの時間を若干ではあるが延長することと、パネルディスカッションを導入することで、総合テーマに関する議論を深化させることが狙いである。なおパラレルセッションの講演者については、小委員会を構成する各学協会から総合テーマ「限界の認識と目標の達成」を念頭に講演者の推薦を依頼中である。

（下線の登壇者は、主催委員会委員）

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

公開シンポジウム「サステイナブルな社会に向けた科学技術と自然界での炭素・水素・酸素・窒素の循環の調和」の開催について

1. 主催：日本学術会議化学委員会・総合工学委員会・材料工学委員会合同触媒化学・化学工学分科会、科学技術振興機構研究開発戦略センター、JST-CREST/さきがけ「革新的反応」領域、日本学術振興会科学研究費新学術領域「光合成分子機構の学理解明と時空間制御による革新的光-物質変換系の創製」(I⁴LEC)
2. 共催：公益社団法人化学工学会（予定）
3. 協賛：公益社団法人日本化学会（予定）、一般社団法人触媒学会（予定）、光化学協会（予定）、公益社団法人応用物理学会（予定）、公益社団法人石油学会（予定）、一般社団法人水素エネルギー協会（予定）、一般社団法人土壌肥料学会（予定）、公益社団法人日本農芸化学会（予定）
4. 日時：平成31年4月12日（金）13：00～17：50
5. 場所：日本学術会議講堂
6. 分科会等の開催：開催予定

7. 開催趣旨：人間は生活を営む上で様々な物質や資源を利用・消費する。しかし地球上のあらゆる物質や資源は基本的に有限である。物質・資源利用の持続可能性向上のためには各々のバリューチェーン全体を考慮に入れた循環的利用の視点が欠かせない。その上で科学的知見の統合による全体像の把握・分析、各種技術の開発、規制の変更、システムの構築、社会との協働等、様々な手段を活用した取組みが求められる。

自然界における人間の営みに関わる物質循環を考えた場合、圧倒的に量が多い元素は水素・酸素・炭素・窒素の4つである。これら以外に各種金属やリンなどの循環も考慮する必要がある。これらの循環は、自然界のみならず科学技術の発展に大きく関わっている。

炭素については、人間の営みによって、化石資源から水素を合成したり、化石資源を燃料や化学工業の原料として用いることにより、二酸化炭素として大気中に大量に放出され地球温暖化の一因となっている。炭素循環を考える上で、水と二酸化炭素から光合成を介して有機物（植物体）へと変換され、その有機物が人間社会の中で様々な形で利用・消費されており、水素、酸素との組み合わせ（C/H/O）を様々なに変化させる形で循環している。また、人工光合成による水や二酸化炭素からの有用なものの合成がなされており、炭素や水素の新たな循環系が構築される可能性がある。また、窒素は自然界におけるバクテリアベースの

循環から、ハーバー・ボッシュ法の確立によって人為的に大きく循環が変化した元素である。ハーバー・ボッシュ法による年間1億8千万トンのアンモニア合成に端を発する過剰な施肥は、土壌・水域・大気への窒素化合物放散と環境破壊を引き起こしている。

これらを鑑みた場合、炭素・水素・酸素・窒素の4つの元素について、自然界と科学技術の両者に着目した循環利用と制御が、持続可能な社会実現のためにも重要である。すなわち、自然界の循環と人工的な技術との調和が求められる。そこで、本シンポジウムでは、自然界でのこれら4つの元素の循環を俯瞰し、これらを効率よく循環利用するための科学技術について体系的に整理し、自然界の循環と科学技術が調和する方向を探ることを目的とする。

8. 次 第：

13：00 開会挨拶

岩澤 康裕（日本学術会議連携会員、東京電気通信大学燃料電池
イノベーション研究センター長・特任教授）

13：05 趣旨説明・総論

「炭素-水素-酸素-窒素の元素循環と持続可能な利用」

関根 泰（日本学術会議特任連携会員、早稲田大学先進理工学研
究科教授）

13：35 「光合成と人工光合成」

工藤 昭彦（日本学術会議連携会員、東京理科大学理学部応用化
学科教授）

14：10 炭素循環

「(仮題) 二酸化炭素回収ならびに直接転換技術」

藤田 照典（日本学術会議連携会員、三井化学（株）シニア・
リサーチフェロー、特別研究室長）

14：45-15：00 （ 休憩 ）

15：00 水素循環

「(仮題) 水素循環と水からの水素製造」

太田 健一郎（横浜国立大学名誉教授）

15：35 自然界での窒素循環

「(仮題) 環境中でのNの循環と分解」

中村 亮二（科学技術振興機構 研究開発戦略センター フェロー）

16：10 科学技術からの窒素循環

「(仮題) アンモニア合成とNO_x分解」

秋鹿 研一（東京工業大学名誉教授）

16：45 総括・自由討論

関根 泰（日本学術会議特任連携会員、早稲田大学先進理工学研
究科教授）

17：45 閉会挨拶

阿尻 雅文（日本学術会議第三部会会員、東北大学材料科学高等
研究所教授）

17：50 閉会

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

（下線の登壇者は、主催分科会委員）